

こんにちは。新年に際して、「あいさつ」の意味をもう一度考えてみます。  
近所のおばさんの会話でよくこのようなのがあります。

「こんにちは。」

「あら、どこかにお出かけですか。」

「はい、ちょっとそこまで。」

「そうですか、それは、それは。」

この会話の内容に何か大切な意味はあるのでしょうか。あまり意味はありません。

また、「こんにちは」という言葉についてはどうでしょう。「こんにちは」ってどんな意味でしょうか。「こんにちは」は漢字で書けば「今日は」。これだけでは不十分な日本語であり、それ自体には意味がありません。

つまり、「あいさつ」はその言っている内容自体には、意味はあまりないのです。では、何のために「あいさつ」をするのでしょうか。

動物を見ていると、その表情やしぐさで、機嫌がよいのか怒っているのかがわかります。例えば、犬に近づいていくと、うれしい時は尻尾を振りながら喜びますが、嫌な時はワンワンと吠えて威嚇します。猫の場合もそうです。うれしい時は手を差し伸べると頬をすり寄せてきますが、嫌な時にはこちらが近寄るだけですぐに逃げていきます。猿も嫌な時は「キー」と鳴いて、歯をむき出しにして怖い顔をして睨んできます。そして「お前は俺の敵だ。近寄るな。」というメッセージをはっきり示します。

ところが、人間は、そんなにはっきりと顔や態度には出しません。廊下ですれ違う時も、うれしがって頬をすり寄せてくる人もいなければ、「キー」と言って歯をむき出しにして敵意を示してくる人もいません。ですから、顔を知っている人同士でも、廊下などですれ違う時などは、そんなに意識はしてないですが、少し緊張します。すれ違う相手が何を考えているのかわからないのですから。人は動物ほどには気持ちを表情や態度に出しませんから、相手が自分のことをどう思っているのかわからなくて、不安な気持ちになります。

しかし、すれ違う時、相手が「こんにちは」と言ってくれたらどんな気持ちになりますか。少し安心しませんか。なぜでしょう。

それは、「こんにちは」という言葉の中には「少なくとも、わたしはあなたを敵とは思っていませんよ。大丈夫ですよ。安心してくださいよ。」というメッセージが含まれているからです。「こんにちは」は、その言葉自体には意味はありませんが、「こんにちは」と声に出して言うことで「わたしはあなたの敵ではありませんから、安心してくださいよ。」というメッセージを伝えています。

「あいさつ」を交わすと、少し気持ちよくなります。それは安心できるからです。初めて会った人や、知り合いとでもすれ違う時に、「あいさつ」をすると、相手の人は安心することができます。相手から「あいさつ」が返ってくると自分も安心することができます。嬉しいですね。

「あいさつ」のたくさんあるところには安心がたくさんあるのです。

仕事やバイトにつかれて、夜、学校に来て、そこが「あいさつ」にあふれる、安心できる場所であったら素敵だと思いませんか。

最近皆さんは本当によく挨拶をしてくれるようになりました。今日も准校長室から体育館に来るまでに何人もの方が挨拶してくれました。とても嬉しく思っています。寝屋定をもっともっとあいさつにあふれる学校にしようと思っています。皆さんの協力をよろしくお願いします。